

## 2 月期相場概況

2 月期の日経平均株価は約 426 円下落した。期中の高値は 2/9 の日中高値 8,257 円、安値は 2/24 の日中安値 7,155 円。

2 月期の日経平均は前期末からの 7800-8200 の揉み合いを下に切り下げる形になった。NY 市場が再び下落を始め、8,000 ドルを割り込むと日経平均も節目となる 7,600 円を下に突き抜け、非常に弱い展開が続いた。2/20 には、米金融大手シティの国有化の噂から株価が 2 ドルを割り込み、NY ダウは 6 年半ぶりの安値をつけ、10 月危機時の株価を下抜けた。日経平均も 10 月安値更新が懸念されたが、従来のパニック的な売りは出ず、7,000 円台が近付くと非常に底堅く反発する動きが続いた。商いは連日 1 兆円ほどと非常に低水準であった。

トピックスや 2 部、新興市場がバブル後の安値を更新する中、日経平均は今期はバブル後安値更新とはならなかった。とはいえ、ドル円も円安が進み輸出産業が主である日経平均にとっては従来よりも環境は改善しているが、上値は非常に重い場面が目立った。このため期末は 7500-7200 の新たなボックスを形成する動きとなった。底値では公的年金のリバランス買い、上値では外国人の売りといった特殊な需給がこのような動きを形成しているといわれており、これは投資主体別売買動向でも読み取れる。

リンカーン・インヴェストメント株式会社